

# 読書活動支援者育成事業研修会

令和3年6月24日（木）郡山市労働福祉会館中ホール 参加者 35名参加

## 実践発表 主体的な学びのための学校図書館と図書委員会との連携



明健中学校 馬場氏 澁谷氏

郡山市立明健中学校 図書主任 馬場 士臣 氏  
学校司書 澁谷 薫 氏

### 【校内図書選定委員会の活性化】

- ・購入図書の選定に教職員の意見を入れ、蔵書内容の充実を図っています。

### 【新聞コーナーの設置】

- ・新聞を日常的に活用できるように、教員と学校司書とが連携し、言語活動の充実を図っています。

### 【情報活用能力の育成】

- ・図書室に「進学ボックス」を設置し、職場体験、職業調べなど、キャリア教育の一助になります。

### 【小・中交流事業】

- ・小中一体・連携教育校の強みを活かし、小中学校統一の貸出名簿をつくり、自由にお互いの図書館を活用できます。また、エプロンシアターなど小学生と中学生のふれあいの場を持っています。

### 【図書委員会の活性化】

- ・校内ビブリオバトルや、POPコンテストの開催を通して、図書委員会が主体的に活動して、学校図書館の利用を活性化させる取組を実施しています。

## 実技発表 読み聞かせボランティアをとおしての自分発見！



ばんげ読み聞かせ会 鶴見氏

ばんげ読み聞かせの会 鶴見 美佐子 氏

### 【会津坂下町での読み聞かせ活動】

- ・会津坂下町を中心に保育園や幼稚園、小中学校で読み聞かせ活動を行っています。
- ・会津農林高校では朝読の時間を活用し、高校生に読み聞かせ活動を行っています。
- ・小学校の学童保育では、学童保育でのイベントとして読み聞かせを行っています。
- ・高齢者施設では、高齢者に合わせて、大型絵本等を使い、視覚的にもわかりやすい読み聞かせを行っています。

### 【会津農林高校生による読み聞かせの活動】

- ・図書委員会の生徒が介護施設や幼稚園、学童保育に出向き、出前読み聞かせを行っています。読み聞かせの会のメンバーと練習を積み重ね、読み聞かせの技術も向上しています。

### 【震災時の読み聞かせ活動の紹介】

- ・震災時に川西公民館に避難してきた葛尾村の方への読み聞かせの活動を紹介していただきました。週2回ずつ2名のメンバーが公民館に出向き、絵本の読み聞かせを行いました。読み聞かせは、被災者が柳津町のホテルや旅館に移動するまで行われました。

## 講演・演習 子どもに幸せな時間を届けるための読み聞かせの極意

(一社)子どもの読書サポート「アシード」 加藤 美穂子 氏



子どもの読書サポートアシード代表 加藤氏

### 【はじめに】

図書ボランティアとして活動後、ボランティアを支援する「やまがた絵本クラブ」を設立し、勉強会などの活動を行いました。その後、これまでの学びを活かそうと「アシード」を設立しました。

福島県では矢祭町の「手作り絵本コンテスト」や那須甲子青少年自然の家での「読書キャンプ」等、様々な活動に関わりを持たれています。県南、県北での読書活動支援者研修会の講師も務められました。

### 【1. 心構え】

- ・ボランティアをするということは、相手に寄り添う、相手も自分も元気になることです。
- ・読み聞かせをするということは、相手に幸せな時間を届けるということです。

### 【2. 様々な場所での活動】

- ・様々な場所で活動するということは、対象の子ども達、活動の意義、留意点が異なってきます。読み聞かせ活動をする際には、場所に応じた十分な事前の準備が必要になります。



読み聞かせのワークショップ



加藤氏持参の絵本を手に取って

### 【3. 会場設定】

- ・会場は子どもが本を見やすいように集めて座らせます。明るいと反射してよく見えません。採光も確認しましょう。

### 【4. 導入の仕方】

- ・本の表紙をしっかりと見せて、本のタイトルもきちんと伝えます。



### 【5. 読み聞かせの基本技術】

#### ①絵本がよく見えるように

- ・子どもに向かってやや斜め向きに座ると本が正面を向きやすくなります。
- ・本に開きぐせをつけます。
- ・ぐらつかないように脇を締めます。
- ・姿勢を正します。

#### ②声がよく聞こえるように

- ・滑舌をよくする「まらみりむるめれもろ」の練習。
- ・軽く息をすってから読み始めると息切れしません。

#### ③理解しやすいように

- ・間の取り方に気をつけます。句読点の後、頁めくりの前後、会話の前後、ラストの7秒を大切にします。
- ・話の流れに沿って読みます。起承転結を意識して、ラストはゆっくりと余韻をもって終わります。



読み聞かせの基本技術がためになります

#### ④その他の注意として

- ・助詞、終助動詞伸ばしをやめます。
- ・文章の1音目ををはっきりと読みます。
- ・指さしはいりません。
- ・所要時間を考えて読みます。
- ・声が不安定になるので、文を読みながら、子どもを見ません。





#### 【6. 集中してもらうための工夫】

- 本の取り合わせと順序を考えましょう。
- 物語+科学 ・ 物語+詩や言葉 ・ 科学+詩や言葉
- 短→長 ・ 静→動 ・ 易→難

#### 【7. 終わり方】

- 本のタイトルを伝えましょう。
- 最後までよく聞いてくれてありがとうと感謝の気持ちを言葉で伝えましょう。
- 無理せずに、いい感じのところで終わり、次回へつなぎましょう。

#### 【8. 選書の仕方】

- ①子どもが選ぶなら、子どもが望む本を。
  - ②読み手が選ぶなら、子ども達を幸せにする本を。
    - 子どもが元気になれる本
    - 子どもが愛され、守られている本
    - 新しい発見のある本や知識を得られる本
    - ビジュアルの新しい本
    - 声に出して楽しめる本
    - 読み手のキャラや声質にあった本
- ▲子どもを不安にさせる本は、集団では避けたいです。



#### 【9. 乳幼児への集団読み聞かせ】

乳幼児への読み聞かせは、本に出会うきっかけ作りとなり、本の楽しさ、人との関わりの経験、子どもを幸せな気持ちで満たす時間になります。

##### ①プログラム構成

- 本は、くっきりはっきりの絵。テンポのいい文章、リズム感のある言葉の本がいいです。
- 「もう一回！」と言われたら、予定を変更してもリクエストに応えましょう。
- 予備のレパートリーも必ず準備しましょう。

##### ②手遊びやわらべうた

- 手遊びは導入、開始、終了の合図として使いましょう。
- お母さん達にもやってもらいましょう。

##### ③パペットの使い方

- 子どもの目の前で、脱着は決して見せません。
- 人形の目と子どもの目が合うようにします。
- 扱う人の視線は人形の背中にします。



### 子どもに幸せな時間を届ける読み聞かせの10か条

- ① 子どもに寄り添える人になりましょう。
- ② 人として受け入れてもらえるよう素性を名乗り、聞いてくれた子ども達に感謝の気持ちを伝えましょう。
- ③ 分からなかったり迷ったりしたら、子どもに聞きましょう。
- ④ 本を選ぶのも楽しむのも、主導権は子どもに握らせましょう。
- ⑤ 感想を強要しないようにしましょう。
- ⑥ 幅広いジャンル（物語、科学、詩や言葉、知識）からの選書を心がけましょう。
- ⑦ 子どもにサービス（指さし、説明、かみ砕き）しすぎないで、なるべく汲み取らせましょう。
- ⑧ どっと沸いてウケることが理想ではないと認識しましょう。
- ⑨ うまくいかなかった時は、原因を究明し、次に活かしましょう。
- ⑩ 社会変化や子ども達の環境にも目を向け、自ら学ぶ機会を増やしましょう。

## 情報交換

毎年、参加者同士が情報を交換できる場が欲しいとの声がありましたので、今年は、情報交換の時間をとりました。短い時間となってしまいましたが、参加者の方々は、それぞれの立場での活動について話をしていました。今後も、読み聞かせボランティアの方々や学校司書の方々が横の連携をとり、読み聞かせ活動や学校図書館がさらに活性化されることを期待します。



## 研修に参加された方のアンケートから

- 図書館、司書の先生との関わりが、不登校児のカウンセリングや居場所づくりになっているということ、素晴らしいです。積極的に図書館と子どもたちを繋いでいる様子、まだ進路を決めかねる時期に、キャリア教育としての機能を図書館に持たせているのも、自分の時代には無かったことなので、興味深いです。是非、これからは地域開放で、住民との繋がりを深めてください。
- 図書委員会との連携はもちろん、小学生から中学まで継続した活動が出来るのは素晴らしいです。やはり教員との協力関係は大切だと感じました。
- 楽しそうにボランティアをされている様子を感じられました。高校生を地域活動に引っ張り出して、次世代に繋いでいくこと、大切ですよね。
- 幼稚園、小学校、中学校、介護福祉施設での読み聞かせ、語り部の活動が素晴らしいと思いました。震災後、たくさんの人を笑顔にし、勇気づけたと思います。私も子供達のため、読み聞かせの練習をし、たくさんの思いを伝えていきたいと思います。
- 『子供の気持ちが大事』 当たり前と思って、実際には抜け落ちていたかもと目から鱗がたくさんありました。とても勉強になりました。読み聞かせにあって、スマホにはないもの・・・機会あるごとに発信していきたいと思います。
- 生後間もなくからの乳児への読み聞かせの記録が、興味深かったです。できるなら、もう一度子育てをして、我が子に実践してみたい気分です。子どもに幸せな時間を届ける、相手に寄り添うというボランティアの基本に立ち返る機会にもなりました。やってあげてる気分のボランティアも多いこの頃なので。
- 私自身は、司書教諭の資格を持っているだけで、図書館での仕事をしてことがありませんが、小学生時代から大好きな場所でした。今の時代の司書の方のお仕事の様子、子どもたちとの関わり方を情報交換で聞くことができ、とてもよい時間を過ごせました。やはり、本は人生の友だちです！
- 今回は、学校の司書の先生が多く参加され、情報交換でもいろいろなお話が聞けてとても良かったです。全体を通し、有意義な時間を過ごせました。
- 楽しく研修できました。運営のみなさんの楽しい雰囲気のお陰も大きいです。ありがとうございました。



## 震災の記憶と教訓の継承として

今年度より、震災の記憶と教訓を後世に伝えるために、読み聞かせ活動を通して各学校で継承する活動を進められるように研修を実施しています。読み聞かせボランティアの方々が、読み聞かせを通して震災と復興から学んだ人々の絆と優しさを伝えられるように、県中地区では、大船渡市のおはなしころりんの実践活動と会津若松市川西公民館で行ったばんげ読み聞かせ会の読み聞かせ活動について紹介していただきました。

### 大船渡市 NPO 法人おはなしころりんの読書を通じた復興支援活動の紹介

【大船渡市おはなしころりんの実践紹介】

- ・「おはなしころりん」は2003年に地域の読書活動推進を目的に設立されました。2016年に読書の普及活動とともに、高齢者の活躍の場と生きがいづくり、地域コミュニティ活性化に取り組むためNPO法人化しました。
- ・震災直後の2ヶ月間、0歳児から高齢者までを対象に月平均30回行ったお話し会の話しには参加者からその回数に驚きの声が上がりました。
- ・読み聞かせ講座とお茶会サロンを通して、心を通わせ、つながりを深めました。



**おはなしころりん** 2. ① 読み聞かせ活動

**0歳児から高齢者までを対象に月平均30回のお話し会を継続して開催**

特定非営利活動法人おはなしころりん

**おはなしころりん** 2. ③ 読み聞かせ講座とお茶会サロン

講座で練習した絵本の読み聞かせを、実際に子どもたちに披露してみよう

特定非営利活動法人おはなしころりん

**おはなしころりん** いま、そして、これから目指すところ

**本で人とまちをつなぐ**

あらゆる年代の方々が、笑顔になり元気がわいてくる読書。その気持ちを分かち合うことで、人とまちがつながっていく。

弊団体運営の地域交流図書室おはなしサロン

大船渡市防災観光交流センター ※2階の管理と運営を業務委託

特定非営利活動法人おはなしころりん

【おはなしころりんがめざすもの】

- ・震災で支援を頂いた東南アジアの子ども達へ、年間240冊の絵本を子ども達の手で送り続けています。
- ・メンバーが絵本の送り先を訪問し、現状を見聞きして、それを大船渡の子ども達へフィードバックします。自分が役立てたと実感することで、次への社会貢献の行動へつながることを期待しています。
- ・今後も、あらゆる年代の方々が、読書を通じて分かち合い、笑顔になる大船渡のまちづくりに貢献していきたいと考えています。



子どもの読書サポート「アシード」の加藤先生からは、子どもの目が輝く新しい本をたくさん持参頂きました。参加者の方々は、手に取って読んだり、加藤先生へ質問したりして、興味深く本を見ていました。それらの本の中に、震災関連の読み聞かせに活用できる絵本もありましたので御紹介します。





## 震災後 10 年目の復興の歩みと「読み聞かせ」

会津坂下町には、平成 23 年 3 月 15 日に、葛尾村から 300 名の被災者の方が、川西公民館に避難してきた。川西公民館は平成 20 年 3 月に閉校になった川西小学校校舎、体育館を活用していたので、公民館というより学校施設を避難所にしたこととなります。

体育館は被災者の人たちでいっぱいでした。私たちばんげ読み聞かせの会（当時はトトロの会）は避難してきた子どもたちに、絵本の読み聞かせをするために、2 名ずつ週 2 回、川西公民館に出向きました。



3 月下旬ころは、まだ外には雪がたくさん積もっていて寒かったことを覚えています。公民館の和室は、お年寄りの人たちが休憩できる部屋になっていたので「読み聞かせ」は廊下の畳一畳敷かれていた場所でストーブ一台を囲み寒さに震えながら読んだ記憶があります。

約 1 か月ほど通い、子どもは幼稚園児から小学生くらいまで約 10 人くらいは集まってくれました。とても喜んで聞いてくれたのを思い出します。私たちは子どもたちが少しでも心があたたかくなってくれればと願っていました。しかし、子どもたちに「がんばって!」ということはなぜか言えませんでした。

その後、被災者の方たちは柳津町のホテルや旅館へと避難していったので読み聞かせは終わりました。



感謝の記念碑と川西公民館での除幕式

令和 3 年 4 月 16 日      ばんげ読み聞かせの会      鶴見美佐子



## 福島県立図書館 東日本大震災福島県復興ライブラリーの展示

県立図書館の御協力の下、研修会場で東日本大震災福島県復興ライブラリーの展示を行いました。県立図書館で所有している本の中から担当者が選び、県立図書館よりお借りして展示しました。

県立図書館では、震災と原発事故の被災県として、資料を収集、保存しています。収集、整理した資料を「東日本大震災福島県復興ライブラリー」として開設し、活用できるよう進めています。各学校、団体でも申込があれば貸出が可能となっています。震災関連の継承事業を進める際には、活用できる資料が豊富にあります。皆さんの団体でも県立図書館のライブラリーをぜひご活用ください。

お問い合わせ：福島県立図書館資料情報サービス部 一般資料チーム

